

ギリシアコルフ島

コルフ島はギリシアとアルバニア国境付近、イオニア諸島の中ほどに位置し、アドリア海の入口となります。コルフは紀元前8世紀頃にギリシア世界に組み込まれ、紀元前734年にコリント人が植民都市ケルキラを建設した。町は南イタリアのギリシア勢力圏マグナ・グラエキアとの貿易で発達し、ローマ時代にはローマ（世界遺産）やナポリ（世界遺産）との貿易で繁栄しました。



★★ 見学地の一部に、ゆるやかな坂道や山道、斜面、また階段があったり、見学地まで長い距離を歩くことがあります。



コリントス遺跡

ギリシャ南部の都市コリントにある都市遺跡で現在のコリントから内陸に約8キロメートル入った場所に位置します。

紀元前8世紀頃にドリス人のポリス（都市国家）が成立し、交通の要地であるコリント地峡を擁し、商工業都市として発展しました。



古代アゴラ遺跡

古代アゴラは紀元前6世紀に町ができてから、ギリシア時代～ローマ時代にアテネの中心地として栄えた場所で、市場だけでなく政治・文化などの中心でもあり、いろんな公共施設の遺構が点在しています。



★★★★
4つ星ホテルに宿泊

- 6/15（木）・19（月）アテネ：スタンレー アテネ
- 6/16（金）デルフィ：アマリア ホテル デルフィ
- 6/17（土）コルフ：ディヴァニコルフホテル
- 6/18（日）パトラ：アカイアビーチホテル



アポロン神殿

ギリシャ中部、パルナソス山麓の古代都市デルフォイにある神殿。紀元前6世紀に建造、火災や地震の被害を受けて、その都度再建された。現在は紀元前370年頃の遺構があり、6本の柱が復元されています。幅23メートル、長さ60メートルのドリス式の神殿で、古代ギリシャで最も重要な神託所となった。「デルフォイの考古遺跡」として世界遺産（文化遺産）に登録されています。

このような場所も見学します

デルフィ考古学博物館

後期ヘラディック（ミケーネ）時代からビザンチン時代初期の、世界遺産デルフィの考古遺跡で発掘された出土品が展示されています。

ミケーネのライオン門

古代ギリシアのミケーネ城塞の門。前15世紀頃ギリシア本土に侵入してきたミケーネ人はミケーネの地に城塞を築きました。中央の柱をはさみ、前脚を柱の基盤に乗せて相対する1対のライオンが浮彫にされています。ミケーネ人の堅固な城門を誇示したモニュメントと言えます。

エピダウロスの劇場

古代エピダウロス劇場は、ギリシャで最も保存状態の良い古代劇場と見なされています。

※このほかの立ち寄り場所や、詳しい行程については右ページの日程表をご覧ください。

※現地ではガイドがご案内いたします。

株式会社 国際交流サービス社長 辻田 洋一が関西国際空港より同行します。

- 1人部屋ご利用の場合は、旅行代金とは別に5泊60,000円(消費税込)が必要です。
- 羽田空港から関西空港までの国内線追加希望の方は別途実費にて手配致します。
- シングルのお部屋は部屋数に限りがございますのでお早めにお申込下さい。
- 海外旅行総合保険加入ご希望の方は別途承ります。
- 国内諸税:関西空港使用料:2,730円、関西旅客保安サービス料:310円、国際観光旅客税 1,000円
- 海外諸税:別途現地諸税約8,000円が発生します。(3月中旬時点)
- 別途燃油サーチャージ約96,000円が発生します。(3月中旬時点)
- 食事回数:21回(うち機中4回) ●最少催行人員10名(定員20名)